

# 国立大学法人 山口大学

## 1. 整備組織名 産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門

## 2. 大学からの報告

### (1) 当初計画（大学知的財産本部整備事業）

#### (1) 体制、機能の整備；

①原則機関帰属となるものを対象として発掘、権利化、管理等を行い、活用は、産学公連携・創業支援機構や山口 TL0 と連携して展開する。②各種ポリシーや規程の制定、啓発・教育の実施、知財相談窓口整備、知財管理システムの構築等を進める。③知的財産本部長に担当副学長を配し、本部長指揮下の統括ディレクターがアドバイザー・ボードの助言を参考に、知財教育・マネジメント部門、ユーザーフロント部門、知財実務部門を統括する。

#### (2) 知財人材の確保、育成；

①統括ディレクター、担当ディレクターは実務経験者の外部人材を充てる。②学内教員等を配したアドバイザー・ボード体制を作る。③知財業務支援の事務系職員を確保、育成する。

#### (3) 知財の活用；

①活用されやすい知財の創出を目指し、知財の権利化の経費を極力抑えるように努める。②知財の活用は、山口 TL0 に技術移転の業務委託で対応する。

### (2) 自己評価

体制・機能の整備については、知財ポリシーや各種規程の制定などを計画通りに進め、当初目標に掲げた体制整備を完了した。また、学生を養成した知財インストラクター制度の確立、知財教本の出版、研究ノートの開発・普及、活動で蓄積したノウハウの他大学への提供など、当初目標を超える活動も行った。

人材の確保・育成では、民間等から知財／法務専門人材を登用し、登用した人材及び学内の知財に精通した教員等により、事務系職員の教育も行って契約担当者等の育成を行うなど、この面でも当初目標を達成した。

知財の活用については、技術移転業務を山口 TL0 に委託する体制を確立し、産学連携担当部署とも連携して知的財産を機軸に事業化を目指す産学共同研究を多数コーディネートするなど、当初目標を達成した。

以上のことから、「当初目標は、概ね達成」と自己評価している。

## 3. 審査・評価小委員会における評価

<評定要素> (平均点)

① 3. 6点	② 3. 0点	③ 3. 3点	④ 3. 4点	⑤ 3. 1点
---------	---------	---------	---------	---------

<コメント>

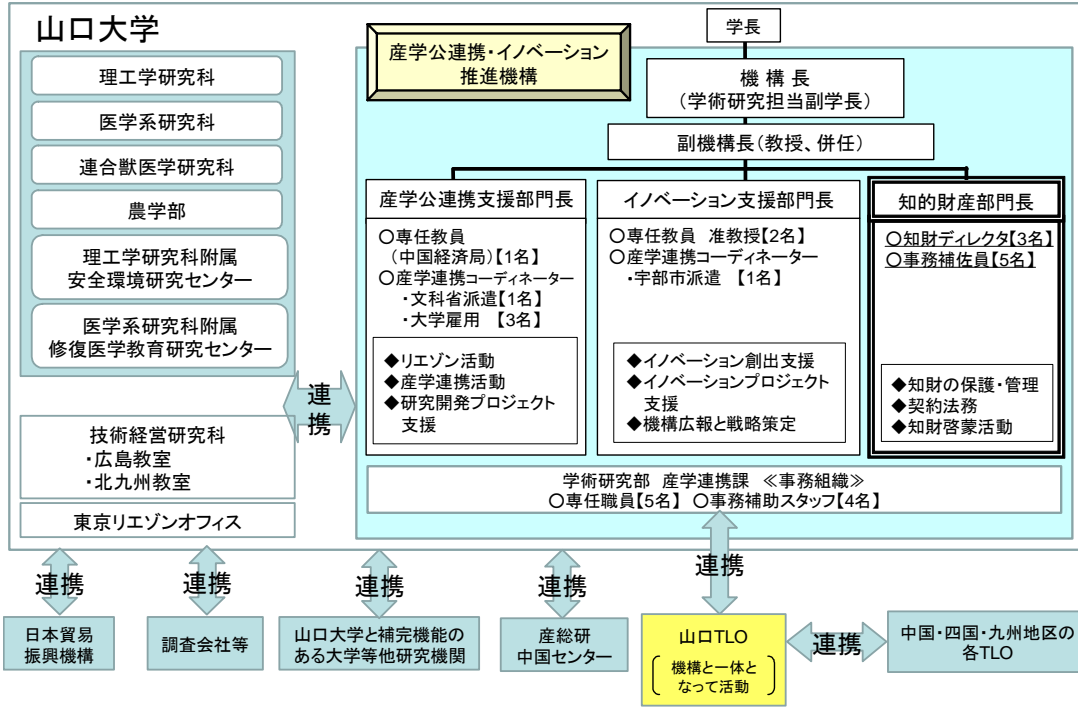
組織改革と地域を巻き込んだイノベーション創出に向けた取組を展開し、体制整備は、順調であり、特許取得件数が伸びている。特に、「特許情報検索システム（YUPASS）」を構築し、他大学へのノウハウの普及を実践している点や、若手人材育成を効率的に行い、他大学の知財人材養成を支援する取組は評価できる。

ただし、発明件数、知的財産の活用実績、大学発ベンチャー創出件数等で目標を下回っている点は課題として残った。このため、その原因の検証と改善の検討が必要である。

今後は、よりきめ細やかな産学官連携活動が重要であり、大学発ベンチャー創出件数や知的財産の活用件数の増加や、ライフサイエンス分野での知的財産活動の支援体制の構築や包括的な産学官連携、地域との連携プログラムの展開等、積極的な取組を期待したい。

# 山口大学

## ◎事業終了時の体制図（平成 20 年 3 月時点）



## ◎成果事例

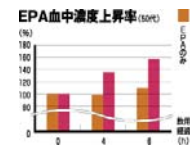
### 血管病を予防する機能性食品の技術開発

国立大学法人山口大学  
産学公連携・イノベーション推進機構  
知的財産部門

#### 要約

心筋梗塞や脳卒中等の血管病は、合計すると我が国死因の第二位となり、突然死の主要原因となる致死性の難病である。山口大学大学院医学系研究科 小林 誠教授は、血管病の主因となる血管異常収縮の原因を解明し、その特効薬として、魚油中のシス体のEPAを見出した。これらの研究成果を発掘した山口大学知的財産本部（当時）は、特許出願により産業財産権を固めた。その後、技術移転を受けた企業が、EPAの腸吸収を高める食品素材を添加した血管病を予防する機能性食品を開発した。

#### 血管病予防機能性食品「エバゴールド」



- 写真：血管病予防機能性食品「エバゴールド」1日にEPAが約600mg摂取できるソフトカプセル
- 表：「エバゴールド」の効果EPA摂取量が従来品と比較して大幅に向上

#### 創出

##### 産学官連携のきっかけ（マッチング）

健康食品の研究開発で実績のある企業が、学術的根拠のある新たな製品開発を模索し、山口大学大学院医学系研究科の研究結果と技術に着目した。その後、山口大学より技術移転の業務委託を受けた(有)山口TLOと、特許ライセンス契約を締結し、事業化に着手した。

##### 共同研究

- 主な実績
  - 平成18年度～平成19年度 NEDO「大学発事業創出実用化開発事業」（有)山口TLOがコーディネーターし、研究成果として、EPAを魚油より抽出する工程のさらなる高効率化・EPA含有量の向上を達成。これにより商品ラインナップを拡充した。

##### 連携機関

- 山口大学大学院医学系研究科 器官制御医学講座・生体機能分子制御学 教授 小林 誠
- オリエンタルバイオ(株) 代表取締役 渡辺和彦
- (有)山口ティー・エル・オー 代表取締役 松浦 満

##### 受賞歴

- 特になし

#### 管理

##### 知財管理（特許化、知財保護）

- 特許出願：国内 1件  
特願2005-378927  
「血管病予防に効果を有する食品生成物」（出願人：国立大学法人山口大学）

#### 活用

##### 技術移転の概要

###### ●技術への貢献

山口大学大学院医学系研究科 小林 誠教授が独自に開発した血管異常収縮評価システムを用いて、血管病の原因となる、血管の異常収縮に対する抑制効果を保持したシス体EPAを高純度で精製する。

###### ●市場への貢献

我が国死因の上位を占め、しかも突然死の主因である血管病の予防に対する社会的ニーズは大きい。従来のEPA含有機能性食品では確認されなかった効果である、血管異常収縮抑制効果を保持したシス体EPAを高濃度に含有し、更に高齢者では低下する傾向にある、腸での吸収を高めた機能性食品を開発する事は、血管病予防可能な機能性食品、という市場ニーズに合致している。

###### ●社会への貢献

血管異常収縮に対し、優れた抑制作用を有するEPAを、食品という形で摂取する事により、広く国民全般に血管病予防が可能となる。

##### 実施料等収入の種別

実施料収入  
(ランニングロイヤリティ)

##### 実施料等収入（累計）

【企業の支払ベース】 約140万円  
(約110万円)